



フロントストラットタワーバー MS324-18001

取付取扱説明書

この度は86用フロントストラットタワーバーをお買い求めいただき、ありがとうございます。
本書には上記フロントストラットタワーバー取付け・取扱い上の注意について記載してあります。
ご使用前に必ずお読みいただき、正しい取付け・取扱いをお願いいたします。
なお、本書は必ずお客様にお渡し下さい。

★ 本商品は未登録車への取付けは出来ません。取付けは車両登録後に行ってください。

■ 品番および適合

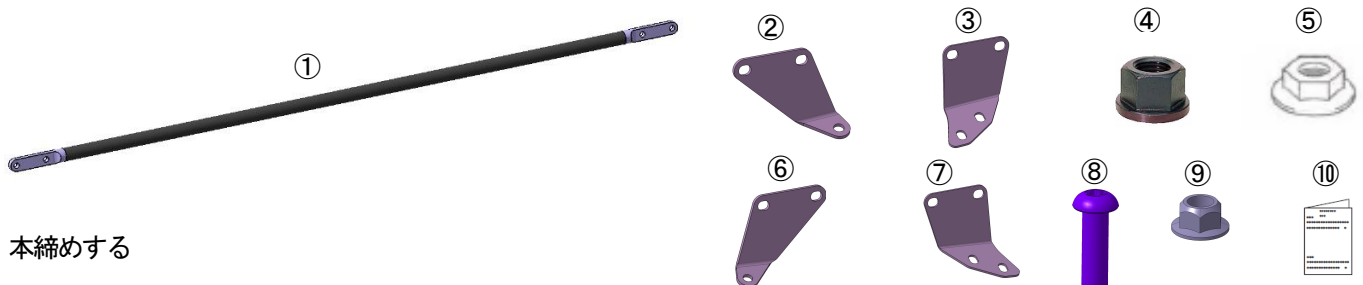
品番	適合車種	型式	年式	備考
MS324-18001	86	ZN6	'12.04~	

・最新の適合情報はTRDカタログサイトをご覧ください。<<http://www.trdparts.jp/>>

■ 構成部品 (組付開始前に必ず内容を確認して下さい)

	部品名	品番	数量		
①	タワーバー(ブレースSUB-Assy)		1		
②	ブレースブラケットRH		1		
③	ブレースブラケットRH		1		
④	ナットA		2	構成部品② 取付部	M8×1.25 H11
⑤	ナットB		4	構成部品③ 取付部	M8×1.25
⑥	ブレースブラケットLH				
⑦	ブレースブラケットLH				
⑧	キャップボルト		4		M8×P1.25 L25
⑨	フランジナット		4		M8×P1.25
⑩	取付取扱説明書(本書)				本書は大切に保管して下さい。

※構成部品④⑤再使用不可部品になります。補給の際は、修理書を参照して該当の純正部品をご使用ください。



本締めする

■ 取付・取扱い上の注意

⚠警告

この内容に従わず、誤った取付、取扱を行うと、人が死亡したり、重傷等を負う可能性がある内容について書かれています。

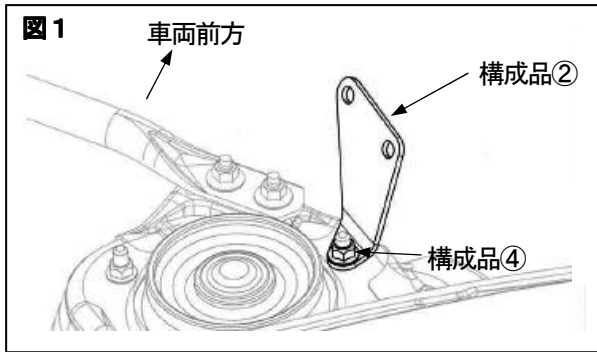
⚠注意

この内容に従わず、誤った取付、取扱を行うと、人が傷害を負ったり、製品等の物的損害に結びつく可能性がある内容について書かれています。

確認 本商品到着後、直ぐに開封し構成部品が全て揃っている事を確認して下さい。

- ⚠ 警告 (1) 本商品を分解したり、加工したりすることは絶対しないで下さい。破損や事故の原因となる場合があります。
- ⚠ 警告 (2) 本商品は適合車種以外には絶対に使用しないで下さい。破損や事故の原因となる場合があります。
- ⚠ 注意 (1) 本商品の取付け作業は必ず専門の整備工場で行って下さい。
- ⚠ 注意 (2) 取付けの際は必ず該当車両の修理書(トヨタ自動車(株)発行)に従い、本書の注意事項を守り作業を行って下さい。(再使用不可ナットに関しましては、必ず同梱品をご使用下さい)
- ⚠ 注意 (3) 本商品を取付け後、他部品との干渉がないか確認して下さい。もし干渉がある場合は購入された販売店にご相談ください。そのまま走行されますと、破損や事故の原因となる場合があります。
- ⚠ 注意 (4) 本商品を取付けた車両は走行特性が変わります。車両に慣れるまでは急激な運転操作は行わないで下さい。事故の原因となる場合があります。
- ⚠ 注意 (5) 運転中に不具合(異音、振動等)が発生した場合は、直ちに車両を安全な場所に停車させ、専門の整備工場にて点検を行って下さい。そのまま走行を続けると、破損や事故の原因となる場合があります。

■ 取付要領(RH側で示します)

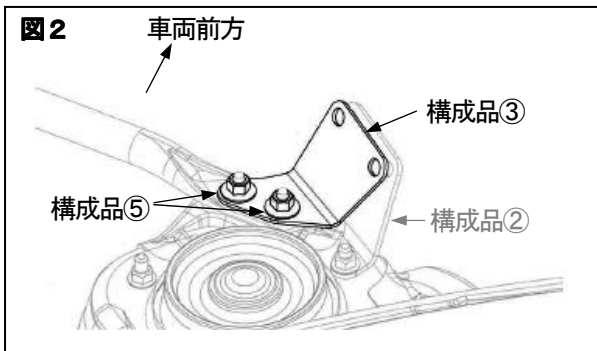


1. タワーバーブラケットの組付け

- (1) 図1のように、サスペンションアッパーサポートのフロント側取付けナットを取外し、構成部品②のブラケットを取付け、**仮止め**する。

△注意

取外したナットは再使用不可品の為、構成部品④のナットに交換して下さい。

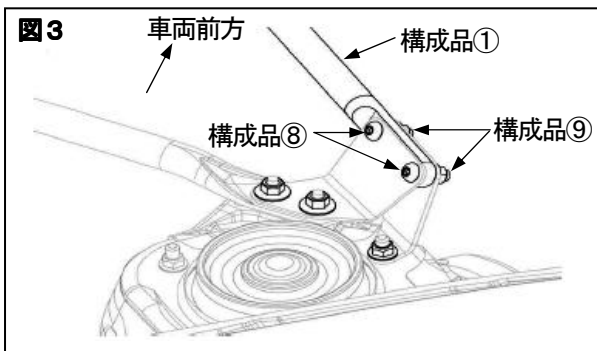


- (2) 図2のように、RHフロントパフォーマンスロッドのフロント側取付けナット2つを外し、構成部品③のブラケットを取付け、**仮止め**する。

△注意

取外したナットは再使用不可の為、構成部品⑤のナットに交換して下さい。

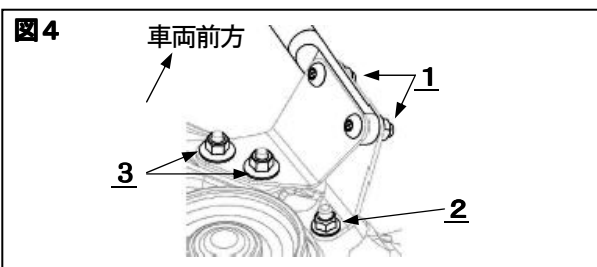
- (3) LH側も同様に組付け作業行う。



2. タワーバーの組付け

- (1) 図3のように左右共に取付けた2枚のブラケット間に構成部品①のタワーバーをTRDロゴがフロント向きになるように挟み込む。
 (2) 構成部品⑧のキャップボルトをリヤ側から入れ、構成部品⑨のフランジナットで**仮止め**する。

- (3) LH側も同様に組付け作業行う。



3. 取付け部の締付作業

- (1) 図4に示す順番にRH側LH側の各ナットを指定トルクで締付ける。

1 : 23N・m 2 : 23N・m 3 : 16N・m

△注意

締付けはタイヤを取付けてリフトダウンして、サスペンションに車両の荷重が掛かっている状態にて実施して下さい。

